

篤姫も立ち寄った府中宿

九州を縦貫する薩摩街道

久留米藩内には、かつて薩摩街道（坊津街道）が通っていました。宿場・山家宿（現在の筑紫野市）を起点に、鹿児島の下まで続いており、薩摩藩や熊本藩など主要大名が江戸と行き交う参勤交代にも使われた街道です。他にも、日田街道や柳川往還など現在の主要交通網が、江戸時代にはすでに整備されていたことが分かります。

久留米藩の参勤交代は、城を出て通町十丁目から北に曲がり、百年公園の北にあった宮地の渡しで筑後川を越え、宮ノ陣町の古賀茶屋で薩摩街道に合流します。4代藩主・有馬頼元までは、瀬戸内海の海路を使っていましたが、天候に影響され、決まった日にたどり着くことができないため、6代藩主・則維からは、山陽道や東海道の陸路で江戸に向かっていました。

藩の繁栄を支える宿場町

薩摩街道と日田街道が交差する地点に、宿場・府中宿（現在の御井町）がありました。参勤交代の大名が宿泊や休憩する本陣（御茶屋）があり、大名の荷物や手紙を預かったり、人や馬、かごの手配をしたりする商人や職人が集まるなど、人や物流、情報や文化が集う場所として繁栄しました。

大名や幕府役人が来る場合は、事前に通知される「先触れ」をもとに、宿主は町奉行に報告し、必要な指示を受けなければなりません。13代将軍・徳川家定にお輿入れした天璋院篤姫が江戸に向かう折は、薩摩街道を通り、府中宿で昼食や菓子を食べたことが記録されています。

①文化財保護課（☎0942・309225、FAX0942・309714）

久留米歴代藩主

- 初代 豊氏 とようじ
 - 二代 忠頼 ただより
 - 三代 頼利 よりとし
 - 四代 頼元 よリモト
 - 五代 頼旨 よリモネ
 - 六代 則維 のりふさ
 - 七代 頼僮 よりゆき
 - 八代 頼貴 よりのたか
 - 九代 頼徳 よりのり
 - 十代 頼永 よりのとお
 - 十一代 頼成 よりのしげ
- は今回のモノ語りと関わる藩主

▶現代の地図に当時の街道を重ねた地図。御井町の矢取から御井小学校付近までが府中宿でした



▲高良下宮社のえびすさん。文政10（1827）年に建立され、10体ある府中のえびすさんの中でも、最古のものです



▶御井小学校は、薩摩街道府中宿の本陣（御茶屋）でした。篤姫とともに、西郷隆盛や大久保利通も通って、江戸に向かいました

